

台湾、香港、中国といった中華圏に共通する最大の祝日は春節だ。中華圏では伝統的に旧暦でお正月をお祝いする。台湾では旧暦の大みそかから旧暦の1月3日までの4

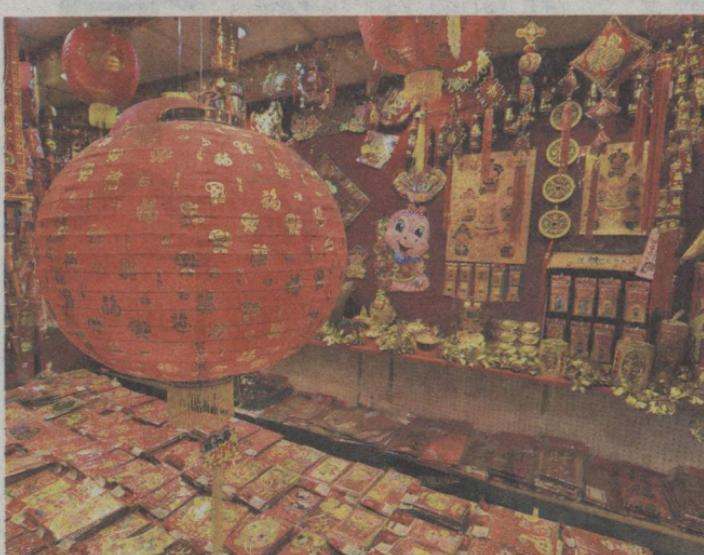
タイ、マレーシア、シンガポールといった東南アジアの国々も、主に華僑と言われる中華系の富裕層が青森りんごの購買層になっている。

春節は、青森りんごに

5万トン時代へ 青森りんご輸出

41

輸出時期



台湾では、きらびやかな「年節飾品」を飾って春節をお祝いする（台湾観光局提供）

中華圏は春節が商機

されている。何といってけに深紅の青森りんごがも春節の真っ赤な飾り付とてもマッチしている。

春節で困るのが、太陰暦で月日が決まるので、毎年日にちが動くことだ。最近の旧正月は、14

年（1月30日）、15年（2月19日）、16年（2月8日）、17年（1月28日）、18年（2月16日）となつていてる。

これまでの傾向から、

旧正月が遅いほど青森りんごの売れ行きが良い。

日本の年末年始の贈答用が一段落したあとに、大きな輸出需要が待ついる格好だ。それからすると、17年は早く春節を迎える分、販売期間が短く

中でも中秋節は3～4連休になり、月餅を食べる習慣がある。日本からはナシやブドウなどが出て回り、果物も人気だ。りんごも相手国の祝日にはまだまだ消費拡大のチャンスがあると思われる。

春節以外の祝日では、清明節（4月、春のお墓参りの日）、端午節（6月、3大節句で2～3連休）、中秋節（9月、旧暦の8月15日、3大節句）、国慶節（10月、建国記念日。台湾は一日だが、中国では7連休）などがある。

配だ。

（県りんご輸出協会事務局長 深澤守）

日間が祝日になり、前後の振り替え休日を含めるたる。中華圏の人々は旧暦のお祭りに、果物籠を友人や親戚に贈る習慣があり、高級りんごとして評価されている青森りんごは贈答用にもてはや

大型連休だ。

青森りんごの輸出先は主に中華圏の国々だが、